

おかしいゾ 総裁選報道一色

自民党政治が問われているのに



自民党総裁選を一面トップで報じる新聞各紙

岸田首相の退陣表明でテレビ各局が報じた街の声は、裏金事件を中心に厳しいものばかり。「news23」(TBS系)のコメントーター・星弘氏は「表紙だけ変えても自民党は変わるか大いに疑問」と語りました。ところがこのところのメディア報道は、岸田政権や自民党政治の検証は棚にあげ「次はだれ?」一色です。政治ジャーナリストの角谷浩一氏は「しんぶん赤旗」日曜版(8月25日号)で次のように述べています。国民が「洗脳」される? 「メディアの在り方も問われています。だれが出たとか、推薦人が20人集まったとか、そんなことばかり延々とやっている、『メディアジャック』ではないかという批判もあります。国民が『洗脳』されてしまうのではと心配になります。問われているのは来年結党70年の自民党政治そのものです」

裏金自民はもうゴメン

岸田首相 退陣表明



裏金自民党政治と戦争できる国づくりを終わらせよと声を上げる人たち(19日、衆院第2議員会館前(しんぶん赤旗)提供)

総選挙で政治変えよう

支持率低迷にあえぐ岸田文雄首相が事実上の退陣を表明(14日)。メディアは「『裏金』逆風やまず引責」(『毎日』15日付)と報じました。国民の怒りが集中したのが自民党裏金事件。発端は「しんぶん赤旗」日曜版のスクープ(2022年11月6日号)と上脇博之氏(神戸学院大学教授)の刑事告発です。日本共産党は国会で「自民党の組織的犯罪」だと論戦を展開しました。自民党の閣僚経験者は「赤旗」日曜版の取材に「(自民党総裁選で)表紙を替えようと躍起だが、裏金問題をごまかそうとすると、国民から痛い批判を浴びる」と話しています。日本共産党の小池晃書記局長は会見(14日)で「裏金問題は自民党が責任をとらなければならない問題だ」と強調。自民党政治を終わらせるために総選挙で日本共産党の躍進、市民と野党の共闘再構築へ全力をあげると表明しました。

日本共産党

改革に背を向ける自民党はもう退場



斉藤和子
元衆議院議員



はたの君枝
前衆議院議員



志位和夫
衆議院議員

衆議院比例代表は「日本共産党」と政党名で選挙区は「候補者の名前」で投票します。

衆議院比例代表は参議院と異なり個人名での投票は無効です。

制度解説 衆議院選挙投票方法

民報ちがさき 2024年9月号①

発行■日本共産党茅ヶ崎市委員会
茅ヶ崎市中海岸4-1-39
TEL■0467-83-2661

日本共産党は以上の見解を発表しました。





今井理華
☎080-9805-3511
rica.loves.jesus@gmail.com



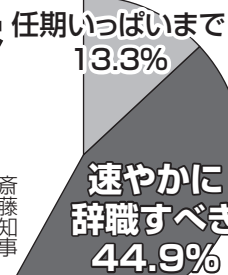
金田俊信
☎090-1106-6029
toshi.kanada@gmail.com

「辞職を」世論沸騰

「おねだり」、パワハラ、阪神・オリックス優勝パレードへの寄付金問題。告発した元県民局長ともう一人の職員がなくなる事態にまで至った斎藤元彦兵庫県知事を巡る疑惑。何が問題になっているのか。



斎藤知事



神戸新聞7月30日付

贈答要求やパワハラ

問題の発端は、元西播磨県民局長が斎藤知事の疑惑を記した告発文書（3月12日付）を報道機関などに送ったこと。知事は元局長を「嘘八百」「公務員失格」と罵倒し、停職3カ月の懲戒処分としました。しかし贈答要求（「おねだり」）やパワハラなど事実であることが明らかになり、

県議会での百条委員会設置となりました。

優勝パレードに補助金還流

補助金を増額し、阪神・オリックス優勝パレード（昨年）の寄付金に還流させた疑惑も。補正予算に1億円計上予定だった金融機関への補助金がパレード直前に、副知事の口頭指示で4億円に増額されました。

知事の座しがみつく

元局長が「一死をもって抗議する」とメッセージを残して亡くなりましたが、知事は「道義的責任はないのか」と問われても「対応は適切」と繰り返すだけ。

斎藤氏は、大阪府の財政課長のとき自民党が知事候補に担ぎ出し、安倍派が支援、維新が相乗りしました。当選後、共産党以外の全ての党・会派が支える「オール与党」体制となりました。

辞職・県政転換を

共産党は兵庫県委員会が「県政混乱の責任



「知事辞職！疑惑究明、県政刷新へ」で議論する参加者。8月10日、神戸市東灘区

をとって辞職を」と要求（7月22日）。「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」も県政転換へ知事選を展望した取り組みを強めています。

百条委でパワハラ認めず

兵庫県議会百条委が斎藤知事に初めて実施した証人尋問（8月30日）で、知事は「反省」「おわび」を繰り返したものの、パワハラは認めませんでした。

自民総裁選 相変わらず ボス詣で

「自民党は変わる」「刷新感」などについて自民党総裁選に名乗りを上げている候補者。実際はどの候補者も相変わらず派閥のボス詣でを繰り返しています。

小林鷹之 前経済安保担当相、上川陽子 外務相、河野太郎 デジタル担当相 → 岸田文雄 首相と面会
石破茂 元幹事長、加藤勝信 元官房長官、野田聖子 元総務相 → 二階俊博 元幹

事長と会談
茂木敏充 幹事長 → 菅義偉 前首相に支援要請
加藤勝信 元官房長官 → 森山裕 総務会長に支援要請
岸田首相は裏金事件を契機に「派閥解消」を訴えたものの、各候補は派閥の領袖の支持を取り付けるのに躍起。口では「改革」をいいますが、派閥の力学で何事も決まるといふ自民党の古い体質は何も変わっていません。

古い政治そのまま

「総裁選は古い自民党の体質と政治を温存させようとするものでしかない」。日本共産党の小池晃書記局長は厳しく批判しました（8月26日、記者会見）。

総裁選ポスターが歴代

自民党総裁の顔を並べて「時代は『誰』を求めるか」などとスローガンを掲げています。小池氏は「古い政治を象徴的に物語るもの。国民は誰も求めていない」と批判しました。